

まず、二つの話を紹介します。

一つ目は、神戸高校が感謝状をいただいたことの紹介です。

自治会と JRC が、文化祭の時に共同で集めた募金 60,492 円を、兵庫県社会福祉協議会に寄付してくれました。このことに対して、同協議会から感謝状をいただきました。

感謝状をいただいたあと、社会福祉協議会ボランティアプラザの所長様から、「神戸高校の皆さんから、毎年継続して寄付をいただいている。生徒の皆さんの温かい思いが、代々受け継がれていることを嬉しく思う。」という主旨のお言葉を頂戴しました。

7月23日からは、このボランティアプラザや神戸マラソン事務局からご支援をいただいて、近隣高校4校合同の東北ボランティアを実施します。本校からは14人が参加します。これも8年もの間、引き継がれてきた息の長い取組です。参加者の皆さんは、有意義な体験をしてきてくれるものと期待しています。

二つ目の話です。少し前、全国から参加者が集まる、ある会議に出席したときのことで。隣にいらっしゃった島根県立高校の校長先生と名刺交換をしたとき、こんな話をしてくださいました。

この島根県の校長先生のご親戚が、現在神戸市内に住んでおられてよく神戸市バスの2系統を利用されるようなのです。その方から、「私がよく乗る市バスに乗り合わせる神戸高校という学校の高校生が、とてもマナーがよくて優しくて気持ちがいい。」という内容の話を聞いたとのことでした。

さて、この二つの話は共通しています。

神戸高校生は、人の気持ちを思いやることができる優しい心を持っているということです。作家の井上靖は、「思いやり」を「相手の立場に立って物を考えること」すなわち「仁」と言っています。神戸高校生が、「思いやり」或いは「仁」を持っていることを、僕はとてもうれしく思っているという話でした。

さて、いよいよ夏休みです。ここで更に二つの話をします。

一つ目です。与えられた時間割をこなす日常と違い、目標達成のために、どう時間を割るのかも、自分で決めるのが夏休みです。6週間あれば、普段できないことがやりきれます。でも、漫然と過ごせば、何も残りません。何を、どうしていくのか、今日決めなさい。

皆さんは潜在的に素晴らしい力を持っています。あとは皆さんのやり抜こうという意志です。

そして、二つ目。4月のアセンブリーでも話したことですが、くれぐれも命、体を大

切にして欲しいという話です。

交通事故などの事故に気をつける、ということはもちろんです。

人間は時に、死にたくなるほど辛くなることや絶望的になることもあります。その時は、ご家族、友達、担任や顧問の先生、保健室の先生ほかいろいろな人を思い出してください。助けて欲しいと手を出せば、必ず誰かがその手を握り返してくれます。

何だって、皆さんのまわりには、思いやりの気持ちを持った人がたくさんいるのですから。

皆さんひとり一人が達成感を持って、そして元気に明るく、9月の始業式を迎えられることを期待しています。